

たけはら 災害復旧かわら版

発行：竹原市建設部
第1号

『災害復旧かわら版』の発行

昨年7月7日に発生した豪雨災害から、およそ8か月が経ちました。被災直後から、市内各所において緊急対応が必要な河川や道路に堆積した土砂や流木の除去を行いました。また、道路や河川護岸が崩壊した箇所の応急処置を行い、少しでも早く市民生活が安定できるよう取り組んでまいりました。そして、昨年の11月には『竹原市復旧・復興プラン「#がんばろう竹原」』を作成し、今後の取組内容と復旧ロードマップをお示したところです。

また、本格的な復旧にあたっては、国の支援を受けるために、国土交通省や農林水産省、財務省の災害査定などに取り組み、今年の1月をもって、その日程を終了いたしました。今後、すみやかに復旧工事を発注し、本復旧を加速させていくとともに、市民の皆様へ「災害復旧かわら版」を発行し、復旧状況などをお知らせしてまいります。

市民の皆様におかれましては、今後本格化する災害復旧事業に対しまして、御理解と御協力の程をよろしくお願いいたします。

被害額は

約27億円で過去最大

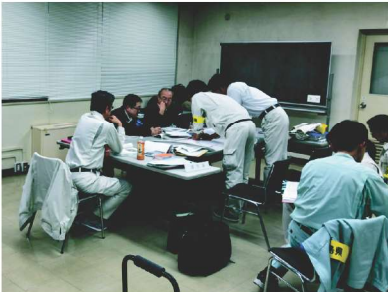
今回の災害における竹原市の公共土木施設、農業施設等の被害の状況です。なお、公共土木施設は、1箇所の被害額（復旧工事費）が60万円以上、農業施設は40万円以上など、一定の要件を満たす被害を対象に集計しています。そのため、要件を満たさない小規模な被害などについては、含まれておりません。

土木・農業施設の被害額

施設名	件数	被害額(万円)
公共土木施設	河川	80 12億7,126
	道路	76 6億8,134
	橋梁	6 3億1,055
	公園	2 6,819
	小計	164 23億3,134
農業施設	田	66 2億5,246
	畑	14 3,168
	ため池	7 6,674
	頭首工	7 1,449
	水路	15 2,974
	農道	7 1,161
	小計	116 4億6,722
林道	林道	1 3,134
	小計	1 3,134
合計	281	27億6,940



▲被災現場での災害査定受検の様子



▲机上図面での災害査定受検の様子

災害復旧までの流れ

災害復旧工事は、被災箇所ごとに国の査定を受けて、補助金の交付を受けながら着手してまいります。

また、災害復旧の原則は、公共土木施設災害復旧事業費国庫負担法など関係法令に基づいて、施設を原形に復旧することであり、災害年を含め3年で復旧工事を終わらせることが原則とされています。

▲土砂が堆積した屋川（東野町）



災害発生

災害報告

調査・測量・設計

国庫補助申請

災害査定

補助金交付決定

災害復旧工事

完成

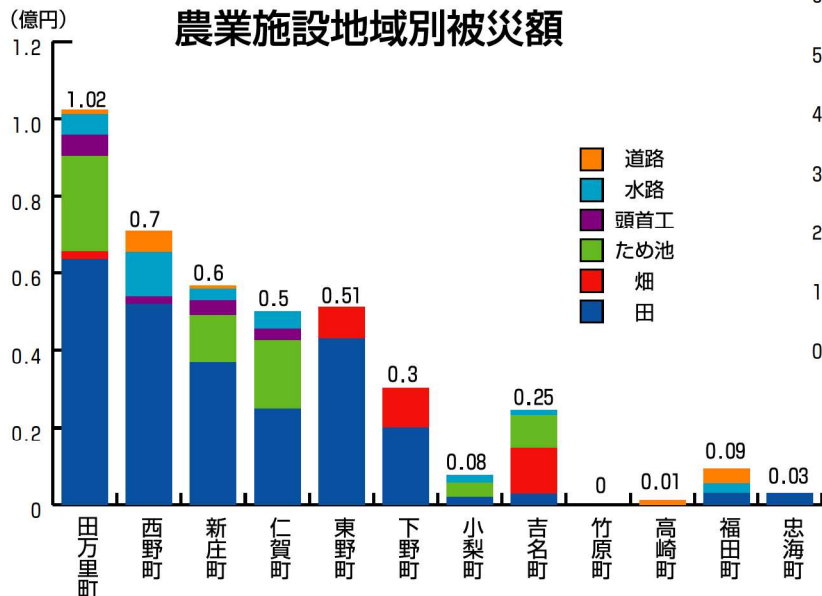
通常発災から2~3ヶ月程度

被災年を含め3年以内

今回の災害状況のデータについては、災害査定の結果を元に集計したデータであることから、1箇所の工事費が広島県で120万円以上、市町村で60万円以上など、一定の要件を満たす災害復旧工事を対象にしています。そのため、要件を満たさない小規模な災害復旧などについては、含まれておりません。

平成30年7月災害 竹原市内の被災状況

農業施設地域別被災額

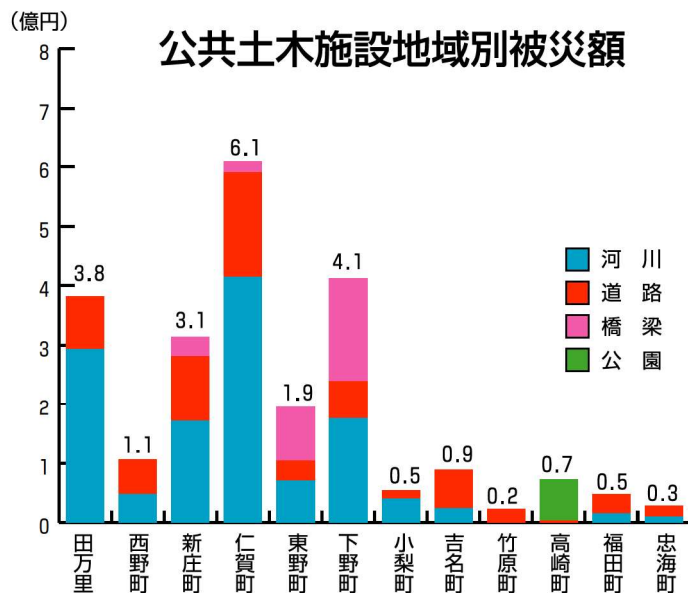


▲農林施設災害についても、被害全体の8割が北部の5町に集中しています。また、今回は降雨による土砂災害が多発したことから、被災内容は、田、畑への土砂流入が多くなっています。



▲葛子川と国道432号 葛子橋北付近 (新庄町)

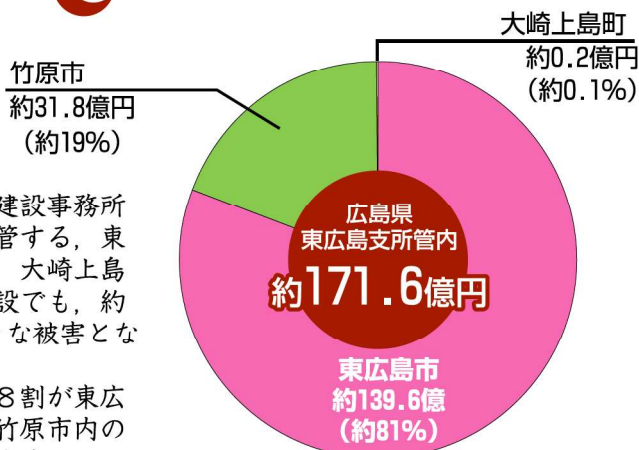
公共土木施設地域別被災額



▲降雨が多かった北部は被災額が多く、北部の5町 (田万里、仁賀、西野、新庄、東野) に、被害全体の6割が集中しています。また、北部の中でも、その4割が仁賀町の被害になっています。



広島県所管 土木施設被害額



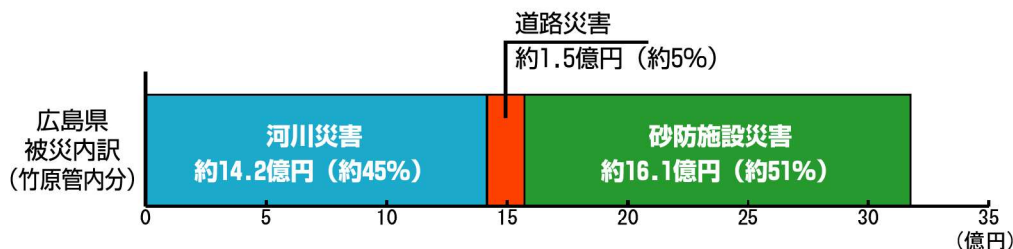
▶ 広島県西部建設事務所東広島支所が所管する、東広島市、竹原市、大崎上島町内の県管理施設でも、約171億円もの大きな被害となっています。

そのうち、約8割が東広島市内、2割が竹原市内の被害となっています。

※広島県の災害資料をもとに作成。また、構成比は、端数処理しているため合計しても100%になりません。



広島県所管 土木施設被害内訳



竹原市内での主な広島県管理施設

二級河川 賀茂川、本川 など
 賀茂川水系 葛子川、田万里川 など
 国道432号、主要地方道三原竹原線 県道南方竹原線など
 砂防河川 片山谷川、西の川 など



▲賀茂川 大福地橋北 (東野町)



▲県道三原竹原線 トンネル西側 (小梨町)

(次号は4月を予定しています)

#がんばろう竹原